

## 第2版へのはしがき

本書を上梓してから8年が経ちました。その間、司法制度改革の大きな波のもと、法科大学院が設立されたり裁判員制度が導入されるなど、わが国での法をめぐる状況には大きな変化がありました。一方、本書を使って法科大学院の授業も行うようになりますと、もう少し詳しく説明すべきところや誤解を招きやすい箇所が目につくようになりました。2006年に、それまでの法改正を反映した若干の補正をしましたが、それだけでは不十分と思われるようになったのです。

そこで今回、本書全体に加筆修正を施して第2版を出すことにしました。本書の基本方針は初版と同じです。したがってその性質上、あまりに細かな論点に立ち入って説明を重ねることは避け、できる限り簡潔を旨としました。ただ、授業で補充説明がなされることを前提にするのではなく、本書を一読するだけで内容が理解できるようにつとめました。もっとも、問いを提示しただけで論述を終わらせているところもありません。答えを考えることは私の宿題でもありますし、読者のみなさんへの問いかけでもあります。問いを考えることによって答えが思い浮ぶとき、それまで分からなかったことがかすかに見えてくるでしょう。そうすると、次に新しい問いが生まれてきます。そのような問いと答えの連鎖こそが学ぶ楽しさなのではないか、と思います。

これまで以上に法への関心が高まっている現在、読者のみなさんが本書をひもとくことで法を学ぶ楽しさをほんの少しでも感じて下さるならば、誠に幸いです。

第2版を出すにあたり、今回も法律文化社の秋山泰氏と畑光氏に大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。

2011年1月

陶久 利彦